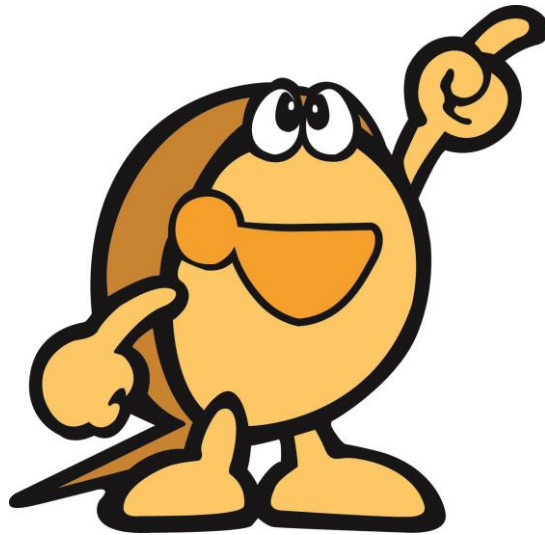


平成25年度

笠岡市の財務書類



生きている化石カブトガニを守るまち

笠岡市 総務部 財政課

平成27年4月

目 次

笠岡市の財務書類について	1
1 財務書類の基本構造	
(1) 財務書類の構成要素	2
(2) 財務書類4表の概要	2
(3) 財務書類4表の関係	3
2 笠岡市における連結財務書類	
(1) 会計区分と連結対象団体	4
(2) 簡易版連結財務書類4表	7
(3) 連結バランスシート	8
(4) 連結行政コスト計算書	12
(5) 連結純資産変動計算書	14
(6) 連結資金収支計算書	15
3 普通会計にかかる財務書類	
(1) バランスシート	16
(2) 行政コスト計算書	20
(3) 純資産変動計算書	21
(4) 資金収支計算書	22
4 財務書類から分かる笠岡市の財政活動（普通会計）	
(1) 平成25年度と平成24年度のバランスシート比較	24
(2) 平成25年度と平成24年度の行政コスト計算書比較	26
(3) 社会資本形成の将来世代負担比率《負債÷公共資産》	27
(4) 歳入対資産比率《資産÷歳入》	28
(5) 純資産比率《純資産÷負債・純資産》	29
(6) 公共資産の目的別割合	30
(7) 目的別行政コスト計算書	31
5 世帯にかかる財政分析（普通会計）	32
6 市民一人にかかる財政分析	
(1) 市民一人当たりの資産・負債（普通会計）	33
(2) 市民一人当たりの行政コスト計算書（普通会計）	36
(3) 市民一人当たりの資産・負債（連結）	37
7 新地方公会計制度について	
(1) 最近の公会計改革を取り巻く流れ	40
(2) 基準モデルと総務省方式改訂モデルの特徴	40
8 用語解説	
(1) 連結バランスシートの用語解説	41
(2) 普通会計バランスシートの用語解説	42
(3) 行政コスト計算書の用語解説	43
(4) 純資産変動計算書の用語解説	44
(5) 資金収支計算書の用語解説	45

笠岡市の財務書類について

笠岡市では、平成 20 年度決算から『総務省方式改訂モデル』により財務書類を作成しており、今回で6年目となりました。

この報告書では、笠岡市に関係する全ての会計を連結した財務書類4表のほかに、これらの財務書類から分かる笠岡市の財政活動、市民一人あたりでの財政分析、県内他市との比較等を記載しております。

平成 25 年度では、笠岡市全体の財政健全化を進めるため、土地開発公社の抜本的な経営健全化に着手しました。土地開発公社の土地を買い戻すため、多額の市債を発行したことにより、普通会計においては、負債額が増加する結果となりましたが、土地開発公社などを含めた、笠岡市の会計全体を連結して見ると、負債額が減少しているのがわかります。

市全体の健全化の状況を確認するためにも、連結財務書類は有効なものとなっています。

また、平成 27 年 1 月には、総務大臣通知による、統一的な基準による地方公会計の整備促進の通知とともに、作成マニュアルが示されました。固定資産台帳の整備と複式簿記の導入を前提とした、統一的な地方公会計基準により、自治体間の比較や適正な資産評価を行うことが可能となります。

今後は、新たな基準による財務書類の作成に向けて準備を進めていきます。

笠岡市における財務書類作成の取り組み状況

平成 11 年度～18 年度

【旧総務省方式】により

普通会計のバランスシートと行政コスト計算書を作成。

平成 19 年度

【総務省方式改訂モデル】により

普通会計のバランスシート、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書を作成。

平成 20 年度～

【総務省方式改訂モデル】により

全ての会計のバランスシート、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書を連結して作成。

1 財務書類の基本構造

(1) 財務書類の構成要素

バランスシートは「資産」、「負債」、「純資産」から構成され、行政コスト計算書は「行政コスト」、「収益」から構成されており、財務書類はこれら5つの要素から構成されている。

①資産	将来の世代に引継ぐ社会資本や債務の返済財源等の金額
②負債	将来の世代が負担しなければならない金額
③純資産	これまでの世代が負担した金額
④行政コスト	ごみの収集や福祉サービスの提供など資産の形成に結びつかない行政サービスに係る経費
⑤収益	行政サービスに対する受益者負担（使用料，手数料など）の金額

(2) 財務書類4表の概要

① バランスシート（貸借対照表）

市民の皆さんが利用する公共施設（財産）、市の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金などがどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成される。

② 行政コスト計算書

行政活動のうち、ごみの収集や福祉サービスなど資産の形成に結びつかない行政サービスに係る経費とその行政サービスの直接の対価として得られた財源（受益者負担）を対比させたもの。

この2つの差が純経常行政コストとなり受益者負担以外の市税等で賄うことになる。

③ 純資産変動計算書

バランスシートの純資産（これまでの世代が負担した部分）が1年間でどのように変動したかを表すもの。

④ 資金収支計算書

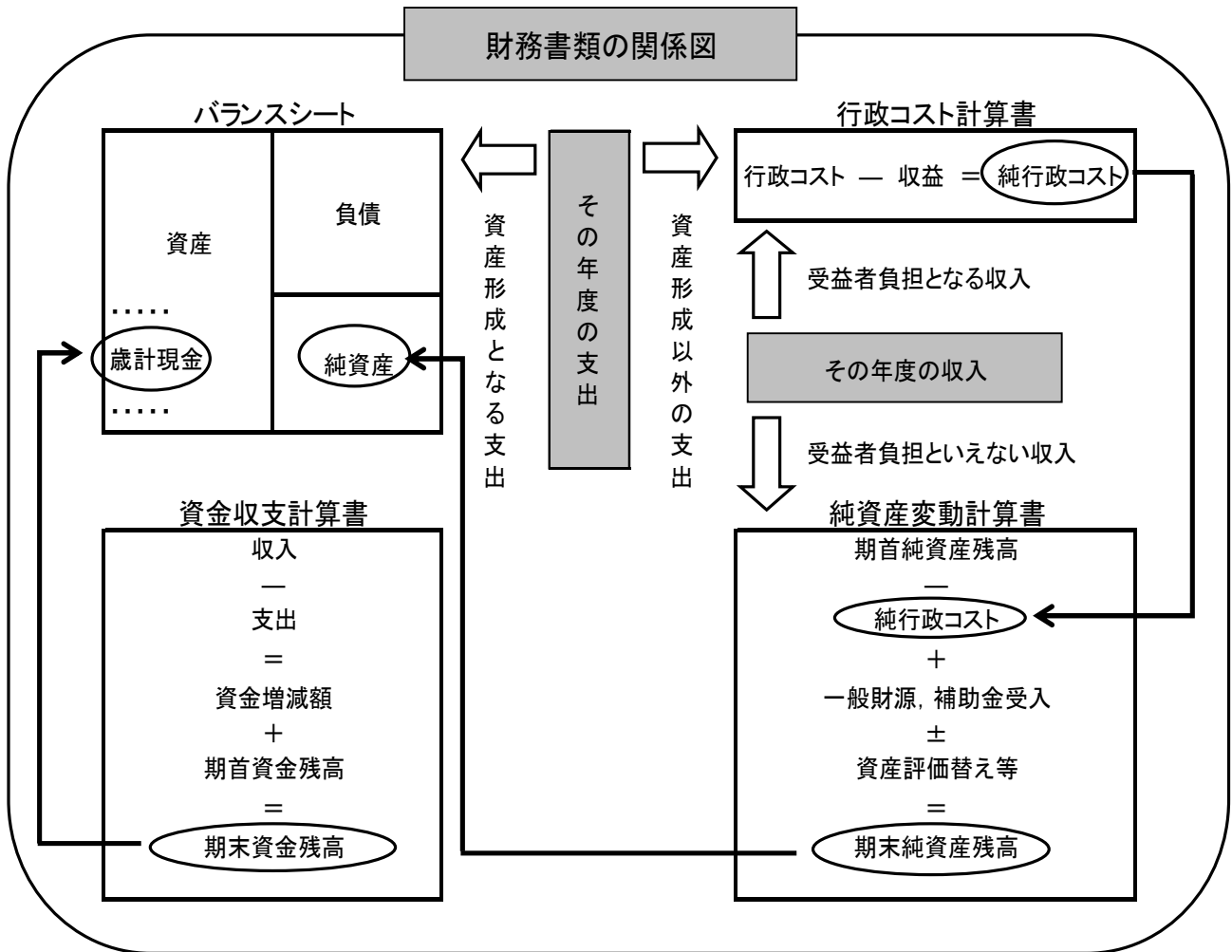
現金の出入りの情報を3つの区分に分けて表したもの。他の3つの財務書類と異なり、行政活動を資金の流れからみたもので、現在の地方自治体の会計制度と同じ現金主義によるものである。

(3) 財務書類4表の関係

財務書類4表は以下のように有機的に関連している。

矢印で結ばれているところは金額が一致することを意味する。

この4表間のつながりは複式簿記を理解する上で非常に重要であり、かつ基本的な事項である。



2 笠岡市における連結財務書類

笠岡市における連結財務書類は、「総務省方式改訂モデル」により作成した。

連結の対象範囲は、普通会計、公営事業会計、公営企業会計、一部事務組合・広域連合と市が全額出資している外郭団体を含めたものとしている。

(1) 会計区分と連結対象団体

① 普通会計

一般会計など各会計の範囲は、地方公共団体ごとに異なっているため、財政比較などをするために統一的に用いられる会計区分である。

笠岡市では、一般会計と4つの特別会計（住宅資金貸付事業、へき地診療施設事業、相生墓園事業、公共用地取得事業）で構成されている。

② 公営事業会計（特別会計等）

公営事業会計とは、公営企業会計と同様、特定の収入をもって事業を行う会計で、普通会計及び公営企業会計に属さない会計である。公営企業とは異なり、一般行政部門のなかで特別会計を設けるなどして運営されている。

国民健康保険事業，国民健康保険真鍋島直営診療施設事業，
後期高齢者医療事業，介護保険事業

③ 公営企業会計

公営企業とは、主として使用料等の収入により住民にサービスを提供する企業のことである。

地方公営企業法が適用され、民間企業と同様に企業会計方式（複式簿記）により会計処理を行っている企業を法適用企業といい、地方公営企業法が適用されず、一般会計等と同様の官庁会計方式により会計処理を行う企業を法非適用企業という。

【地方公営企業法を適用】

水道事業，病院事業

【地方公営企業法を非適用】

下水道事業，土地造成事業，工業団地造成事業

④ 一部事務組合・広域連合

一部事務組合とは、複数の普通地方公共団体が、行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置する組織である。笠岡市の場合、小北中学校や養護老人ホームの管理運営、し尿、不燃ゴミ、可燃ゴミの中間処理、ごみの最終処分、斎場の管理運営、消防・救急業務などを周辺市町と共同で行っている。

また、後期高齢者医療については、広域連合を設置し、共同で事業を実施している。

なお、連結バランスシートでは、各組合に対する負担割合で按分し、金額を計上している。

岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合、岡山県西部地区養護老人ホーム組合、
岡山県西部衛生施設組合、岡山県西部環境整備施設組合、笠岡地区消防組合、
岡山県市町村総合事務組合、岡山県市町村税整理組合、
岡山県後期高齢者医療広域連合、井笠地区農業共済事務組合、
岡山県西南水道企業団

⑤ 外郭団体

連結バランスシートの対象とした団体は、市が資本金、基本金その他これらに準ずるものの100%を出資しており、市議会への報告がなされている3法人としている。

笠岡市土地開発公社、笠岡市総合福祉事業団吸江社、
笠岡市文化・スポーツ振興財団

笠岡市の連結対象団体

負担割合
出資割合

地方公共団体 (市)	普通会計	一般会計	連 結 対 象	
		住宅資金貸付事業特別会計		
	へき地診療施設特別会計			
	相生墓園事業特別会計			
公営事業会計	国民健康保険事業特別会計			
	国民健康保険真鍋島直営診療施設特別会計			
公営企業会計	法適	水道事業会計	連 結 対 象	
		病院事業会計		
	法非適	下水道事業特別会計		
		土地造成事業特別会計		
工業団地造成事業特別会計				
一部事務組合・広域連合	岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合		対	61.92%
	岡山県西部地区養護老人ホーム組合			57.49%
	岡山県西部衛生施設組合			37.95%
	岡山県西部環境整備施設組合			56.01%
	笠岡地区消防組合			54.04%
	岡山県市町村総合事務組合			3.21%
	岡山県市町村税整理組合			10.79%
	岡山県後期高齢者医療広域連合			3.16%
	井笠地区農業共済事務組合			28.11%
	岡山県西南水道企業団			67.00%
外郭団体	笠岡市土地開発公社			100.0%
	笠岡市総合福祉事業団 吸江社			100.0%
	笠岡市文化・スポーツ振興財団			100.0%

(2) 簡易版連結財務書類 4表

笠岡市の連結財務書類（4表）の相互関係は次のようになっている。
矢印で結ばれているところは金額が一致する。

【バランスシート】

(単位：百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
1. 公共資産	124,676	1. 固定負債	39,782
(1)有形固定資産	123,716	(1)地方債	34,266
(2)無形固定資産	691	(2)退職手当引当金	5,002
(3)売却可能資産	269	(3)その他	514
2. 投資等	4,175	2. 流動負債	4,010
(1)投資及び出資金	161	(1)翌年度償還予定 地方債	3,051
(2)貸付金	106	(2)その他	959
(3)基金等	3,908	負債合計	43,792
3. 流動資産	4,869		
(1)資金	2,357		
(2)未収金	909		
(3)その他	1,603		
		純資産の部	金額
		純資産合計	89,928
資産合計	133,720	負債及び純資産合計	133,720

【行政コスト計算書】

(単位：百万円)

項目	金額
1. 人にかかるコスト	5,671
2. 物にかかるコスト	9,847
3. 移転支出的なコスト	24,351
4. その他のコスト	2,412
経常費用合計	42,281
経常収益 (使用料・手数料等)	17,151
純経常行政コスト	25,130

【資金収支計算書】

(単位：百万円)

項目	金額
1. 経常的収支	a 5,053
2. 公共資産整備収支	b △ 162
3. 投資・財務的収支	c △ 5,738
当期収支	d (a+b+c) △ 847
期首資金残高	e 3,322
負担割合変更調整	f △ 118
期末資金残高 d+e+f	2,357

【純資産変動計算書】

(単位：百万円)

項目	金額
期首純資産残高	89,719
純経常行政コスト	△ 25,130
地方税	7,037
地方交付税	6,158
補助金等受入	10,980
その他	1,164
期末純資産残高	89,928

(3) 連結バランスシート

市の財政は普通会計のみで成り立っているのではないため、真の笠岡市全体の資産や負債のストック情報に関する財政活動を分析する場合には、連結バランスシートを用いることになる。
(用語解説はP 4 1～4 2を参照)

バランスシート（貸借対照表）は、年度末における

- ◆ **資 産**＝将来の世代に引継ぐ社会資本、債務返済の財源等
- ◆ **負 債**＝将来の世代の負担となる債務
- ◆ **純資産**＝これまでの世代の負担を対比させて表示したものである。

資 産
【住民の財産】
将来の世代に引継ぐ社会資本や債務返済財源等の金額

=

負 債
【将来の世代の負担】
将来の世代が負担しなければならない金額

+

純資産
【これまでの世代の負担】
これまでの世代が負担した金額

土地開発公社の経営健全化のため、普通会計で市債を発行して、土地の買戻しを実施したことが主要因となり、負債は、普通会計では 12 億円の増となったが、土地開発公社の負債は減少したため、笠岡市全体では 11 億円の減となった。

土地開発公社の経営健全化が市全体の健全化に繋がっていることが見て取れる。

平成26年3月31日現在

(単位：億円)

	H25	H24	増減		H25	H24	増減
資 産	1,337	1,346	△ 9	負 債	438	449	△ 11
将来の世代に引継ぐ社会資本				将来の世代の負担となる債務			
1 公共資産	1,247	1,246	1	1 固定負債	398	401	△ 3
				2 流動負債	40	48	△ 8
債務返済の財源等				純 資 産	899	897	2
2 投資等	42	41	1	これまでの世代の負担			
3 流動資産	48	59	△ 11				
4 繰延勘定	0	0	0				

連結バランスシート作成の前提条件

1 対象範囲	普通会計（5会計）、公営事業会計（4会計）、公営企業会計（5会計）、一部事務組合・広域連合（10組合）、外郭団体（3団体）
2 対象年度	平成25年度（基準日：平成26年3月31日）
3 会計基準	<p>I 普通会計・公営事業会計，水道・病院事業以外の公営企業会計，一部事務組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決算統計データから作成したバランスシートを活用 <p>II 公営企業会計（水道・病院）及び一部事務組合のうち岡山県西南水道企業団</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方公営企業法施行規則等に基づいて作成した貸借対照表を活用 <p>III 外郭団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益法人会計基準，企業会計原則，土地開発公社経理基準要綱等に基づいてそれぞれ作成され，市議会への報告がなされている各々の貸借対照表等を活用
4 減価償却方法	<p>I 普通会計，公営事業会計，水道・病院事業以外の公営企業会計，一部事務組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方公営企業法施行規則等を参考に耐用年数を設定し，当該区分ごとの定額法による。 <p>II 公営企業会計（水道・病院）及び一部事務組合のうち岡山県西南水道企業団</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方公営企業法施行規則による耐用年数等に基づく定額法による。
5 退職手当引当金	<p>I 普通会計，公営事業会計，公営企業会計，一部事務組合・広域連合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計年度末に職員全員が普通退職したと想定し，その要支給額を計上 <p>II 外郭団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの貸借対照表上に計上している額を計上
6 出納整理期間中の調整	<p>普通会計等においては出納整理期間が設けられており，出納整理期間中の現金の受払い等が終了した後の数値を会計年度末に計上しているが，公営企業会計（水道・病院）等には出納整理期間が存在しない。</p> <p>連結に際して，普通会計等において出納整理期間中に公営企業会計等へ現金の受払い等がなされた場合は，公営企業会計等においても，これに対応する現金の受払い等が当該年度末に終了したものとして調整を行っている。</p>

連結バランスシート
(平成26年3月31日現在)

(単位：百万円)

借 方		貸 方	
[資産の部]		[負債の部]	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方公共団体	
①生活インフラ		①普通会計地方債	19,092
・国土保全	64,571	②公営事業地方債	13,612
②教育	25,897	地方公共団体計	32,704
③福祉	1,374	(2) 関係団体	
④環境衛生	16,418	①一部事務組合	
⑤産業振興	12,068	・広域連合地方債	1,562
⑥消防	1,067	②地方三公社長期借入金	0
⑦総務	2,321	③第三セクター等長期借入金	0
⑧収益事業	0	関係団体計	1,562
⑨その他	0	(3) 長期未払金	4
有形固定資産計	123,716	(4) 引当金	5,090
(2) 無形固定資産	691	(うち退職手当等引当金)	5,002
(3) 売却可能資産	269	(うちその他の引当金)	88
公共資産合計	124,676	(5) その他	422
		固定負債合計	39,782
2 投資等		2 流動負債	
(1) 投資及び出資金	161	(1) 翌年度償還予定額	
(2) 貸付金	106	①地方公共団体	2,819
(3) 基金等	2,879	②関係団体	232
(4) 長期延滞債権	1,236	翌年度償還予定額計	3,051
(5) その他	1	(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金含む)	33
(6) 回収不能見込額	△ 208	(3) 未払金	322
投資等合計	4,175	(4) 翌年度支払予定退職手当	165
		(5) 賞与引当金	259
3 流動資産		(6) その他	180
(1) 資金	2,357	流動負債合計	4,010
(2) 未収金	909		
(3) 販売用不動産	1,511	負債合計	43,792
(4) その他	147		
(5) 回収不能見込額	△ 55	[純資産の部]	
流動資産合計	4,869		
4 繰延勘定	0	純資産合計	89,928
資産合計	133,720	負債及び純資産合計	133,720

連結バランスシートの会計別内訳

(平成26年3月31日現在)

(単位：百万円)

会計名	普通会計	公営企業	特別会計等	一部事務 組合等	外郭団体	相殺による 調整額	計
[資産の部]							
1. 公共資産	75,128	40,744	13	7,232	2,141	△ 582	124,676
(1)有形固定資産	74,977	40,360	13	6,806	2,124	△ 564	123,716
(2)無形固定資産		311		381		△ 1	691
(3)売却可能資産	151	73		45	17	△ 17	269
2. 投資等	4,556	598	1,024	499	370	△ 2,872	4,175
(1)投資及び出資金	2,412			37	20	△ 2,308	161
(2)貸付金	73	566		33		△ 566	106
(3)基金等	1,296		803	428	350	2	2,879
(4)長期延滞債権	853	77	306			0	1,236
(5)その他				1		0	1
(6)回収不能見込額	△ 78	△ 45	△ 85			0	△ 208
3. 流動資産	2,152	3,212	322	625	328	△ 1,770	4,869
(1)資金	2,038	1,047	259	567	42	△ 1,596	2,357
(2)未収金	135	801	91	55		△ 173	909
(3)販売用不動産		1,295			216	0	1,511
(4)その他		75		3	70	△ 1	147
(5)回収不能見込額	△ 21	△ 6	△ 28			0	△ 55
4. 繰延勘定						0	
資産合計	81,836	44,554	1,359	8,356	2,839	△ 5,224	133,720
[負債の部]							
1. 固定負債	22,360	14,591	9	3,056	698	△ 932	39,782
(1)地方債・長期借入金	19,092	13,603	9	1,562	670	△ 670	34,266
(2)長期未払金				4		0	4
(3)引当金	3,268	948	0	846	28	0	5,090
(うち退職手当等引当金)	3,268	948		758	28	0	5,002
(その他の引当金)				88		0	88
(4)その他		40		644		△ 262	422
2. 流動負債	2,168	1,979	16	491	1,341	△ 1,985	4,010
(1)翌年度償還予定地方債	1,908	910	1	232		0	3,051
(2)短期借入金 (翌年度繰上充用金を含む)				33	1,320	△ 1,320	33
(3)未払金		858		25	20	△ 581	322
(4)翌年度支払予定退職手当	128	0		36		1	165
(5)賞与引当金	132	78	10	39		0	259
(6)その他		133	5	126	1	△ 85	180
負債合計	24,528	16,570	25	3,547	2,039	△ 2,917	43,792
[純資産の部]							
純資産合計	57,308	27,984	1,334	4,809	800	△ 2,307	89,928
負債・純資産合計	81,836	44,554	1,359	8,356	2,839	△ 5,224	133,720

(4) 連結行政コスト計算書

バランスシートが、これまでの行政活動によって形成された建物・土地などの資産と、その財源である地方債などのストック情報を表したものであるのに対し、行政コスト計算書は、当該年度に行った行政活動のうち、ごみの収集や福祉サービスの提供といった資産の形成には結びつかない行政サービスに係る経費及び財源のフローを表したものである。

(用語解説は、P 4 3を参照)

平成 25 年度行政コスト計算書では、行政コスト総額 423 億円に対して、連結対象となる会計・団体・法人等が実施する事業に対する施設利用料や保険料、その他受益者負担金は 172 億円となっており、行政コストの多くが受益者負担以外の税金等で賄われていることが分かる。

行政コストでは、介護保険や後期高齢者医療などの社会保障給付費の増加傾向が続いている。

平成 2 6 年 3 月 3 1 日現在

(単位：億円)

	H25	H24	増減		H25	H24	増減
行政コスト	423	408	15	特定財源	172	160	12
人にかかるコスト				事業に対する受給者負担			
人件費や退職手当等引当金繰入等	57	57	0	使用料、手数料や負担金など	93	91	2
物にかかるコスト				保険料や事業収入など	79	69	10
物件費、維持修繕費や減価償却費	98	97	1	純経常行政コスト	251	248	3
移転支出的なコスト				不足する部分は、市税や地方交付税などの一般財源や国県補助金などで賄っている。			
社会保障給付や補助金など	244	241	3				
その他のコスト							
公債費（支払利息）など	24	13	11				

連結行政コスト計算書の会計別内訳

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

【経常行政コスト】

(単位：百万円)

性 質 \ 会計名称等	普通会計	公営企業	特別会計等	一部事務 組合等	外郭団体	相殺による 調整額	計	
人にか かる コスト	(1)人件費	2,804	1,232	193	669	72	△ 16	4,954
	(2)退職手当等引当金繰入等	265	124		66	2	1	458
	(3)賞与引当金繰入額	132	78	10	40		△ 1	259
	小 計	3,201	1,434	203	775	74	△ 16	5,671
物にか かる コスト	(1)物件費	2,867	1,611	294	550	141	△ 394	5,069
	(2)維持修繕費	218	103	1	71	16	0	409
	(3)減価償却費	2,540	1,413	1	415		0	4,369
	小 計	5,625	3,127	296	1,036	157	△ 394	9,847
移 転 支 出 的 な コ ス ト	(1)社会保障給付	3,724	8	9,562	7,451		△ 1	20,744
	(2)補助金等	2,753		2,283	221	3	△ 2,102	3,158
	(3)他会計等への支出額	3,451		2			△ 3,453	0
	(4)他団体等への 公共資産整備補助等	449					0	449
	小 計	10,377	8	11,847	7,672	3	△ 5,556	24,351
そ の 他 の コ ス ト	(1)支払利息	283	344		29		0	656
	(2)回収不能見込増減額	△ 3	8	△ 26			1	△ 20
	(3)その他行政コスト		60	311	60	1,357	△ 12	1,776
	小 計	280	412	285	89	1,357	△ 11	2,412
経 常 行 政 コ ス ト a	19,483	4,981	12,631	9,572	1,591	△ 5,977	42,281	

【経常収益】

使用料・手数料	b	488			60		0	548
分担金・負担金・寄附金	c	556	136	4,938	5,807		△ 2,731	8,706
保険料	d			2,563			0	2,563
事業収入	e		3,361	20	649	1,368	△ 168	5,230
その他特定行政サービス収入	f		31	29	65	225	△ 246	104
他会計補助金等	g		1,486	1,333	1		△ 2,820	0
経 常 収 益 合 計 (b + c + d + e + f + g)	h	1,044	5,014	8,883	6,582	1,593	△ 5,965	17,151
(差引) 純経常行政コスト a - h		18,439	△ 33	3,748	2,990	△ 2	△ 12	25,130

(5) 連結純資産変動計算書

税収や国県補助金などによる期首から期末への純資産の増減の動きを明示するための財務書類である。純資産を構成する一般財源等に加え、国県補助金等についても要因別の変動が把握できる。

(用語解説は、P 4 4 を参照)

連結純資産変動計算書の会計別内訳

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

(単位：百万円)

項目 \ 会計	普通会計	公営企業	特別会計等	一部事務 組合等	外郭団体	相殺によ る調整額	計
期首純資産残高	57,717	27,549	1,491	4,397	797	△ 2,232	89,719
純経常行政コスト	△ 18,439	33	△ 3,748	△ 2,990	2	12	△ 25,130
一般財源							
地方税	7,037					0	7,037
地方交付税	6,158					0	6,158
その他行政コスト充当財源	1,131			58		△ 12	1,177
補助金等受入	3,746	294	3,591	3,348	1	0	10,980
臨時損益							
災害復旧事業費	△ 54					0	△ 54
公共資産除売却損益	4	△ 35		△ 1		0	△ 32
投資損失							
収益事業純損失				△ 3		0	△ 3
損失補償等引当金繰入							
出資の受入・新規設立		75				△ 75	0
資産評価替えによる変動額	8	△ 9		△ 1		0	△ 2
無償受贈資産受入		80				0	80
その他		△ 3		1		0	△ 2
期末純資産残高	57,308	27,984	1,334	4,809	800	△ 2,307	89,928

(6) 連結資金収支計算書

市及び関連団体の歳出をその性質に応じて「経常的支出」「公共資産整備支出」「投資・財務的支出」の3つに区分し、それに対応する財源を収入として表示したものであり、歳入・歳出の実態を反映した財務書類である。

連結することで、普通会計で他会計などへ支出されたものが、その会計でどのように使われたのかに置き換わることになる。

(用語解説は、P 4 5を参照)

連結資金収支計算書の会計別内訳

自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日

(単位：百万円)

区分 \ 会計名称等	普通会計	公営企業	特別会計等	一部事務組合等	外郭団体	相殺による調整額	計	
経常的 収支の 部	(1)人件費	3,344	1,427	203	844	73	△ 14	5,877
	(2)物件費	2,867	1,506	295	590	146	△ 251	5,153
	(3)社会保障給付	3,724	7	9,562	7,451	0	0	20,744
	(4)補助金等	2,753		2,283	221	3	△ 2,102	3,158
	(5)支払利息	283	344		30		△ 2	655
	(6)他会計への事務費等充当財源繰出支出	2,862		2			△ 2,864	
	(7)その他支出	272	343	312	131	26	△ 12	1,072
	支 出 合 計	16,105	3,627	12,657	9,267	248	△ 5,245	36,659
	収 入 合 計	19,606	4,732	12,763	9,998	2,013	△ 7,400	41,712
	経 常 的 収 支 額	3,501	1,105	106	731	1,765	△ 2,155	5,053
公 共 資 産 整 備 収 支 の 部	(1)公共資産整備支出	3,545	1,489				△ 1,450	3,584
	(2)公共資産整備補助金等支出	449					0	449
	(3)他会計への建設費充当財源繰出支出	74					△ 74	
	(4)地方独立行政法人公共資産整備支出						0	
	(5)一部事務組合・広域連合公共資産整備支出				657		0	657
	(6)地方三公社公共資産整備支出					36	0	36
	(7)第三セクター等公共資産整備支出						0	
	支 出 合 計	4,068	1,489	0	657	36	△ 1,524	4,726
収 入 合 計	2,801	1,235		542	1	△ 15	4,564	
公 共 資 産 整 備 収 支 額	△ 1,267	△ 254	0	△ 115	△ 35	1,509	△ 162	
投 資 ・ 財 務 的 収 支 の 部	(1)投資及び出資金					20	0	20
	(2)貸付金	25	150		34		△ 150	59
	(3)基金積立額	61	80	372	247		1	761
	(4)定額運用基金への繰出支出						0	
	(5)他会計への公債費充当財源繰出支出	890					△ 890	
	(6)地方債償還額	1,912	967		492	1,880	△ 180	5,071
	(7)その他		100		2	100	0	202
	支 出 合 計	2,888	1,297	372	775	2,000	△ 1,219	6,113
収 入 合 計	467	378		200	150	△ 820	375	
投 資 ・ 財 務 的 収 支 額	△ 2,421	△ 919	△ 372	△ 575	△ 1,850	399	△ 5,738	
翌年度繰上充用金増減額								
当年度資金増減額	△ 187	△ 68	△ 266	41	△ 120	△ 247	△ 847	
期首資金残高	2,225	1,115	525	529	162	△ 1,234	3,322	
負担割合変更に伴う調整(一部事務組合等)				△ 3		△ 115	△ 118	
期末資金残高	2,038	1,047	259	567	42	△ 1,596	2,357	

3 普通会計にかかる財務書類

(1) バランスシート

資産に対する負債，純資産の割合は，おおよそ3：7となっている。
負債（借金）に頼らない資産形成を進めるとともに，売却可能な資産の処分も進めていく必要がある。

(用語解説はP 4 1～4 2を参照)

平成26年3月31日現在

資産 818億円	負債 245億円
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">将来の世代に引継ぐ社会資本</div> 1 公共資産 751億円 (1)有形固定資産 ①生活インフラなど 342億円 ②教育関係 248億円 ③その他 160億円 (2)売却可能資産 1億円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">将来の世代の負担となる債務</div> 1 地方債 191億円 2 長期未払金 0億円 3 退職手当引当金 33億円 4 その他 21億円
	純資産 573億円
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">債務返済の財源等</div> 2 投資等 46億円 (1)投資及び出資金 24億円 (2)貸付金 1億円 (3)基金等 13億円 (4)長期延滞債権 9億円 (5)回収不能見込額 △ 1億円 3 流動資産 21億円 (1)現金・預金 20億円 (2)未収金 1億円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">これまでの世代の負担</div> 1 国県補助金等 146億円 2 一般財源等 427億円 3 資産評価差額 0億円

普通会計バランスシート作成の前提条件

1 対象範囲	普通会計								
2 対象年度	平成25年度（基準日：平成26年3月31日） ※出納整理期間（平成26年4月1日から5月31日まで）の入出金を含めている								
3 固定・流動の区分	・原則として、基準日の翌日（平成26年4月1日）から1年以内に入出金するものを流動資産・負債とし、それ以外のものを固定資産・負債とする一年基準を採用している								
4 有形固定資産の評価基準	取得原価主義…取得に要した実際の経費で現時点での評価額ではない ・取得原価は昭和44年度以降の地方財政状況調査（決算統計）における普通建設事業費のデータを使用している								
5 減価償却	・土地を除く有形固定資産の減価償却は、行政目的別・種別の耐用年数により、定額法（毎年度一定の額を取得原価から差し引く方法）で行っている 耐用年数の主なものは次のとおりである <table border="1" data-bbox="502 1048 1300 1146"> <tr> <td>総務費・庁舎等</td> <td>50年</td> <td>土木費・公園</td> <td>40年</td> </tr> <tr> <td>民生費・保育所</td> <td>30年</td> <td>教育費・校舎等</td> <td>50年</td> </tr> </table>	総務費・庁舎等	50年	土木費・公園	40年	民生費・保育所	30年	教育費・校舎等	50年
総務費・庁舎等	50年	土木費・公園	40年						
民生費・保育所	30年	教育費・校舎等	50年						
6 退職手当引当金	・普通会計の全職員が年度末に普通退職（自己都合）した場合に必要な退職手当の額を計上している								

普通会計バランスシート
(平成26年3月31日現在)

(単位：百万円)

借 方		貸 方	
[資産の部]		[負債の部]	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方債	19,092
①生活インフラ		(2) 長期未払金	
・国土保全	34,194	①物件の購入等	0
②教育	24,756	②債務保証又は損失補償	0
③福祉	1,356	③その他	0
④環境衛生	1,014	長期未払金計	0
⑤産業振興	11,033	(3) 退職手当引当金	3,268
⑥消防	312	(4) 損失補償等引当金	0
⑦総務	2,312	固定負債合計	22,360
有形固定資産計	74,977		
(2) 売却可能資産	151	2 流動負債	
公共資産合計	75,128	(1) 翌年度償還予定地方債	1,908
		(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金)	0
2 投資等		(3) 未払金	0
(1) 投資及び出資金		(4) 翌年度支払予定退職手当	128
①投資及び出資金	4,700	(5) 賞与引当金	132
②投資損失引当金	△ 2,288	流動負債合計	2,168
投資及び出資金計	2,412		
(2) 貸付金	73	負債合計	24,528
(3) 基金等			
①退職手当目的基金	84	[純資産の部]	
②その他特定目的基金	564	1 公共資産等整備国県補助金等	14,653
③土地開発基金	648	2 公共資産等整備一般財源等	54,435
④その他定額運用基金	0	3 その他一般財源等	△ 11,760
⑤退職手当組合積立金	0	4 資産評価差額	△ 20
基金等計	1,296	純資産合計	57,308
(4) 長期延滞債権	853		
(5) 回収不能見込額	△ 78		
投資等合計	4,556		
3 流動資産			
(1) 現金預金			
①財政調整基金	1,596		
②減債基金	3		
③歳計現金	439		
現金預金計	2,038		
(2) 未収金			
①地方税	92		
②その他	43		
③回収不能見込額	△ 21		
未収金計	114		
流動資産合計	2,152		
資産合計	81,836	負債・純資産合計	81,836

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産	①生活インフラ・国土保全	4,505	百万円
	②教育	111	
	③福祉	540	
	④環境衛生	796	
	⑤産業振興	3,513	
	⑥消防	9	
	⑦総務	1,129	
	計	10,603	
上記の支出金に充当された財源	①国県補助金等	1,497	
	②地方債	1,465	
	③一般財源等	7,641	
	計	10,603	
※2 債務負担行為に関する情報	①物件の購入等	453	
	②債務保証又は損失補償	0	
	(うち共同発行地方債に係るもの)	0	
	③その他	631	

※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち14,153百万円は、償還時に地方交付税の算定基礎に含まれる見込みです。

※4 普通会計の将来負担に関する情報

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 【地方債・未払 金・引当金】	注記 【契約債務・ 偶発債務】
普通会計の将来負担額 a	37,707 百万円		
[内訳] 普通会計地方債残高	21,000	21,000 百万円	
債務負担行為支出予定額	452	0	452 百万円
公営事業地方債負担見込額	10,900		10,900
一部事務組合等地方債負担見込額	816		816
退職手当負担見込額	3,396	3,396	
第三セクター等債務負担見込額	1,143	0	1,143
連結実質赤字額	0		
一部事務組合等実質赤字負担額	0		
基金等将来負担軽減資産 b	28,380		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	1,768		
地方債償還額等充当歳入見込額	4,997		
地方債償還額等充当交付税見込額	21,615		
普通会計が将来負担すべき実質的な負債	9,327 a-b		

※5 有形固定資産のうち、土地は16,102百万円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は61,765百万円です。

(2) 行政コスト計算書

1年間の行政サービス（資産形成を除く）を提供するうえで発生した費用を表している。職員の給料など人にかかる経費として約 32 億円，委託事業や物品の購入，公共施設の維持管理費などに約 56 億円，生活保護費や医療費の助成などに約 104 億円となっている。

(用語解説はP 4 3を参照)

自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日

(単位:百万円)

【経常行政コスト】			
(人にかかるコスト)			
人件費	2,804		
退職手当引当金繰入等	265		
賞与引当金繰入額	132		
小 計			3,201
(物にかかるコスト)			
物件費	2,867		
維持補修費	218		
減価償却費	2,540		
小 計			5,625
(移転支出的なコスト)			
社会保障給付	3,724		
補助金等	2,753		
他会計等への支出額	3,451		
他団体への公共資産整備補助金等	449		
小 計			10,377
(その他のコスト)			
支払利息	283		
回収不能見込増減額	△ 3		
その他行政コスト	0		
小 計			280
経常行政コスト a			19,483
【経常収益】			
使用料・手数料 b	488		
分担金・負担金・寄附金 c	556		
経常収益 合計 (b + c) d			1,044
(差引) 純経常行政コスト a - d			18,439

(3) 純資産変動計算書

税収や国県補助金などによる期首から期末への純資産の増減の動きを明示するための財務書類である。純資産を構成する一般財源等に加え、国県補助金等についても要因別の変動が把握できる。

(用語解説はP 4 4を参照)

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

(単位：百万円)

	純資産 合計	資産等整備 国県補助金 等	資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価 差額
期首純資産残高	57,717	14,667	54,008	△ 10,930	△ 28
純経常行政コスト	△ 18,439			△ 18,439	
一般財源					
地方税	7,037			7,037	
地方交付税	6,158			6,158	
その他行政コスト充当財源	1,131			1,131	
補助金等受入	3,746	583		3,163	
臨時損益					
災害復旧事業費	△ 54			△ 54	
公共資産除売却損益	4			4	
投資損失	0			0	
損失補償等引当金繰入等	0				
科目振替					
公共資産整備への財源投入			952	△ 952	
公共資産処分による財源増		0	0	0	
貸付金・出資金等への財源投入			587	△ 587	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 494	494	
減価償却による財源増		△ 597	△ 1,943	2,540	
地方債償還等に伴う財源振替			1,325	△ 1,325	
資産評価替えによる変動額	8				8
無償受贈資産受入	0				
その他	0			0	
期末純資産残高	57,308	14,653	54,435	△ 11,760	△ 20

(4) 資金収支計算書

市の歳出をその性質に応じて、「経常的支出」「公共資産整備支出」「投資・財務的支出」の3つに区分し、それに対応する財源を収入として表示したものであり、歳入・歳出の実態を反映した財務書類である。

(用語解説はP 4 5を参照)

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

(単位：百万円)

1 経常的収支の部	
人件費	3,344
物件費	2,867
社会保障給付	3,724
補助金等	2,753
支払利息	283
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	2,862
その他支出	272
支出合計	16,105
地方税	7,041
地方交付税	6,158
国県補助金等	3,098
使用料・手数料	445
分担金・負担金・寄附金	490
諸収入	213
地方債発行額	1,104
基金取崩額	355
その他収入	902
収入合計	19,806
経常的収支額	3,701

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	3,545
公共資産整備補助金等支出	449
他会計等への建設費充当財源繰出支出	74
支出合計	4,068
国県補助金等	648
地方債発行額	2,132
基金取崩額	11
その他収入	10
収入合計	2,801
公共資産整備収支額	△ 1,267

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	0
貸付金	25
基金積立額	284
定額運用基金への繰出支出	0
他会計等への公債費充当財源繰出支出	890
地方債償還額	1,912
長期未払金支払支出	0
支出合計	3,111
国県補助金等	0
貸付金回収額	336
基金取崩額	0
地方債発行額	27
公共資産等売却収入	5
その他収入	99
収入合計	467
投資・財務的収支額	△ 2,644

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度歳計現金増減額	△ 210
期首歳計現金残高	649
期末歳計現金残高 a	439

期首財政調整基金等残高	1,576
財政調整基金等取崩額	△ 200
〃 積立額	223
期末財政調整基金等残高 b	1,599
期末資金残高 a+b	2,038

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成25年度における一時借入金の借入限度額は2,500百万円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は1百万円です。

※2 基礎的財政収支（プライマリーバランス）に関する情報

収入総額		23,074 百万円
地方債発行額	△	3,263
財政調整基金等取崩額	△	200
支出総額	△	23,284
地方債元利償還額		2,194
財政調整基金等積立額		223
基礎的財政収支		△ 1,256 百万円

- ※3 上記のほか、県税等の受け入れに伴う歳計外現金の収入額6,383百万円（県税等の払い出しに伴う支出額6,045百万円）があります。

4 財務書類から分かる笠岡市の財政活動（普通会計）

(1) 平成25年度と平成24年度のバランスシート比較

土地開発公社経営健全化のための土地の買戻しや防災・減災事業、臨時財政対策債の残高増が主要因となり、資産と負債が増額となった。

資 産： 8億円の増加

負 債： 12億円の増加

純資産： 4億円の減少

(単位：億円)

区 分	25年度	24年度	増 減	説 明
【資産の部】	818	810	8	
1 公共資産	751	741	10	
(1) 有形固定資産	750	740	10	市が建設した市民生活の基盤
①生活インフラ・国土保全	342	346	△ 4	道路、橋、公園、住宅など
②教育	248	237	11	学校、幼稚園、公民館など
③福祉	14	14	0	保育所、老人福祉センターなど
④環境衛生	10	11	△ 1	保健センター、清掃事業所など
⑤産業振興	110	108	2	漁港、サンライフなど
⑥消防	3	3	0	消防庁舎、消防機庫など
⑦総務	23	21	2	市民会館、庁舎など
(2) 売却可能資産	1	1	0	換価性の高い土地
2 投資等	46	45	1	
(1) 投資及び出資金	24	23	1	公営企業、外郭団体への出資金
(2) 貸付金	1	1	0	地域総合整備資金貸付ほか
(3) 基金等	13	15	△ 2	使い途が決まっている基金
①退職手当目的基金	1	2	△ 1	退職手当に充てるために積み立てられた基金
②その他特定目的基金	5	6	△ 1	福祉基金、義務教育施設整備費引当基金など
③土地開発基金	7	7	0	公共用地の先行取得のために積み立てられた基金
(4) 長期延滞債権	9	7	2	市税などの収入未済額のうち1年以上未収のもの
(5) その他	0	0	0	
(6) 回収不能見込額	△ 1	△ 1	0	1年以上の収入未済額のうち将来徴収不能となる可能性が高いと見込まれるもの
3 流動資産	21	24	△ 3	
(1) 現金・預金	20	22	△ 2	
①財政調整基金	16	16	0	財源を調整するための基金
②減債基金	0	0	0	市債償還のための基金
③歳計現金	4	6	△ 2	形式収支（歳入－歳出）
(2) 未収金	1	2	△ 1	
①地方税	1	1	0	市税の収入未済額のうち1年未満のもの
②その他	0	1	△ 1	市税以外の収入未済額のうち1年未満のもの
③回収不能見込額	0	0	0	1年未満の収入未済額のうち将来徴収不能となる可能性が高いと見込まれるもの

(単位：億円)

区 分	25年度	24年度	増 減	説 明
【負債の部】	245	233	12	
1 固定負債	224	209	15	
(1) 地方債	191	178	13	翌々年度以降に償還する市債残高
(2) 長期未払金	0	0	0	翌々年度以降に支出する債務
①物件の購入等	0	0	0	
②債務保証又は損失補償	0	0	0	
③その他	0	0	0	
(3) 退職手当引当金	33	31	2	年度末に在籍する市職員全員が普通退職したと仮定した場合の退職手当推計
(4) その他	0	0	0	
2 流動負債	21	24	△ 3	
(1) 翌年度償還予定地方債	19	19	0	翌年度に償還予定の市債額
(2) 未払金	0	0	0	翌年度に支出予定の債務
(3) 翌年度償還予定退職手当	1	3	△ 2	翌年度に支出予定の退職金
(4) 賞与引当金	1	2	△ 1	本年度に支出した賞与のうち前年度負担分
【純資産の部】	573	577	△ 4	
1 公共資産等整備国県補助金等	146	147	△ 1	有形固定資産の取得等の財源から減価償却額を控除した額
2 公共資産等整備一般財源等	544	540	4	
3 その他一般財源等	△ 117	△ 110	△ 7	
4 資産評価差額	0	0	0	
【負債・純資産合計】	818	810	8	

(2) 平成25年度と平成24年度の行政コスト計算書比較

経常行政コストは、人件費や補助金（一部事務組合の負担金など）、他団体への公共資産整備補助金等（介護施設建設のための補助金など）が減少し、物件費や社会保障給付が増加した結果、経常行政コストは4億円減少した。

(単位：億円)

項目	25年度	24年度	増減	説明
1 人件費	28	29	△ 1	市職員の給与，議員の報酬など
2 退職手当引当金繰入等	3	3	0	市職員の退職手当引当金
3 賞与引当金繰入額	1	2	△ 1	市職員の賞与引当金
4 物件費	29	27	2	施設管理等の委託費，物品の購入費など
5 維持補修費	2	2	0	道路，建物等の修繕費
6 減価償却費	25	25	0	固定資産の減価償却
7 社会保障給付	37	36	1	生活保護，医療費助成，子ども手当など
8 補助金等	28	30	△ 2	各種団体の事業に対する補助金など
9 他会計への支出額	34	34	0	下水道事業特別会計などへの繰出金
10 他団体への公共資産整備補助金等	4	7	△ 3	普通建設事業のうち他団体への補助金など
11 支払利息	3	3	0	市債の利子
12 回収不能見込増減額	0	0	0	市税等の徴収不能見込額
13 その他行政コスト	0	0	0	
経常行政コスト合計	194	198	△ 4	
1 使用料・手数料	5	4	1	施設使用料，戸籍等手数料など
2 分担金・負担金・寄附金	5	6	△ 1	分担金，負担金，寄附金など
経常収益合計	10	10	0	
(差引) 純経常行政コスト	184	188	△ 4	実質的な経常行政コスト額

(3) 社会資本形成の将来世代負担比率 《負債÷公共資産》

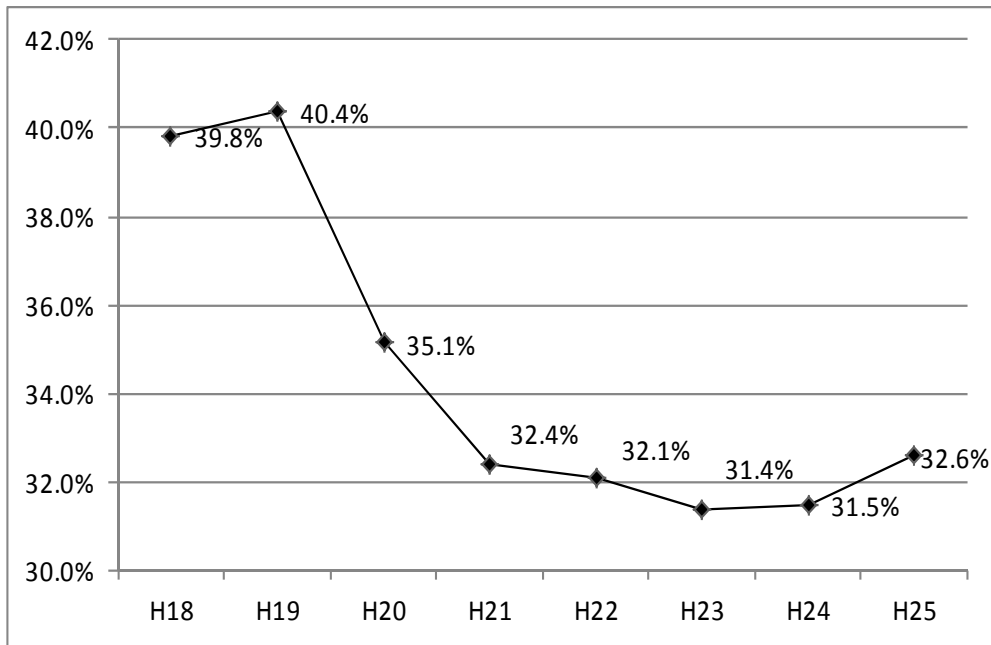
公共資産（将来の世代に引継ぐ社会資本）の形成に充てた負債（地方債など将来世代の負担となる債務）の割合。

この割合が低いほど将来の世代の負担が軽いことを表す。

公共資産は、長期にわたって市民に利用されるものであることから、将来利用する世代との間で公平な負担割合となることが望まれる。

本市における、現在保有する公共資産における将来世代の負担は、3分の1以下で推移しているが、資産を形成しない臨時財政対策債の残高が増傾向にあり、その影響で平成25年度では、資産の増額より負債の増額幅が大きくなり、率は上昇した。

大幅な比率の上昇を招かないように、計画的な資産形成を進めなければならない。



※19年度より総務省方式改訂モデルで作成

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
39.8%	40.4%	35.1%	32.4%	32.1%	31.4%	31.5%	32.6%

県内他市との比較（H24年度）

岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	井原市	総社市	高梁市	新見市
39.6%	27.2%	40.6%	40.9%	27.8%	36.2%	17.0%	35.7%
備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市			
29.1%	41.1%	37.5%	31.9%	33.3%			

(4) 歳入対資産比率 《資産÷歳入》

資産の形成に充てた歳入の割合。

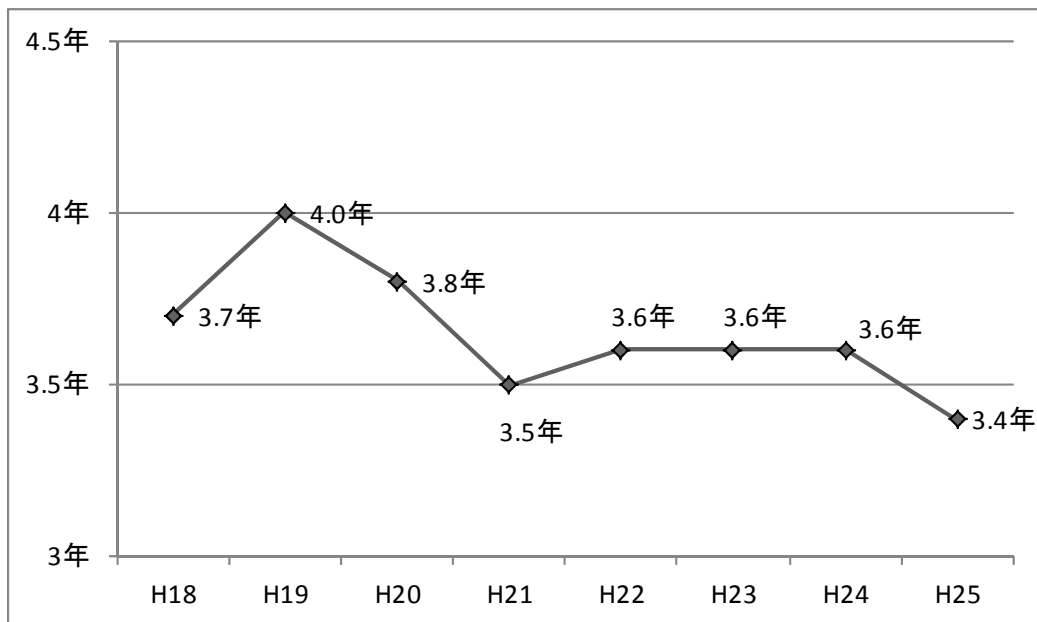
バランスシート上の「資産合計」は、社会資本として形成された固定資産や積み立てられた基金など、資産の総額を表している。

この「資産合計」が「その年の歳入合計」の何年分に相当するかを表した比率で、社会資本整備の度合を示す指標といえる。

割合（年数）が高いほど社会資本の整備に重点を置いてきたことを表すが、歳入が減少することにより、割合が高まることにも留意する必要がある。

公共資産の残高の減少と、経済対策のための歳入の増加により平成20年度以降、割合は低下し、その後は資産と歳入が同割合で減少しているため、横ばいとなっていた。

平成25年度は、これまでの傾向とは逆に、公共資産、歳入ともに増加し、歳入の増加割合の方が大きかったため、比率は減となった。



※19年度より総務省方式改訂モデルで作成

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
3.7年	4.0年	3.8年	3.5年	3.6年	3.6年	3.6年	3.4年

県内他市との比較（H24年度）

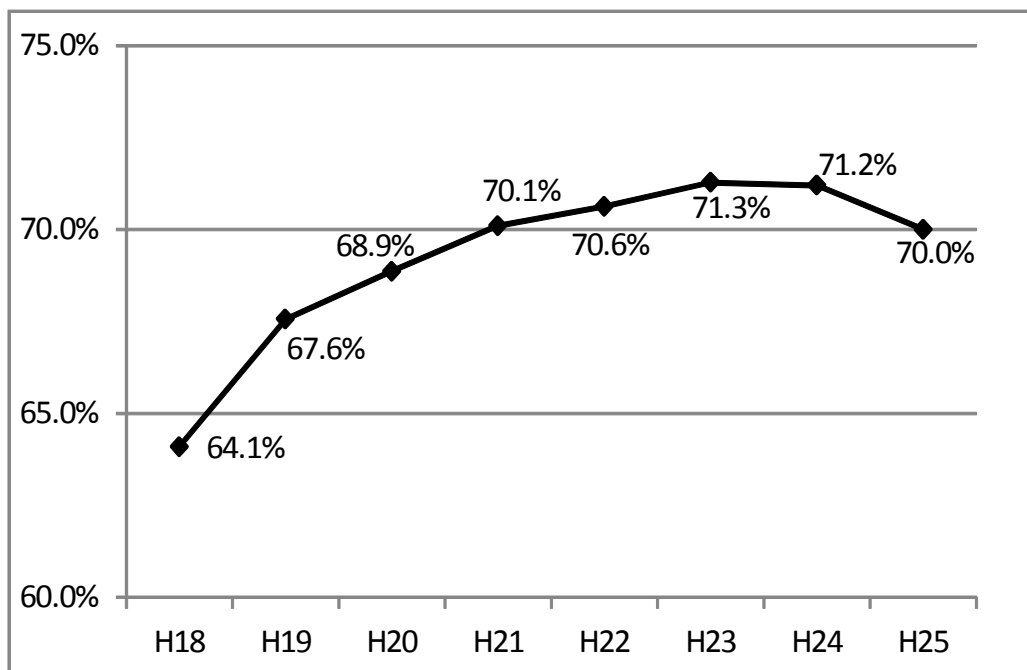
岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	井原市	総社市	高梁市	新見市
3.4年	4.1年	3.7年	2.9年	4.9年	4.3年	9.4年	5.1年
備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市			
4.2年	3.6年	3.8年	4.7年	3.6年			

(5) 純資産比率《純資産÷負債・純資産》

負債・純資産（＝資産）に対する純資産の割合。

企業会計での自己資本比率に相当し，この割合が高いほど財政状態が健全であるといえる。

市債発行の抑制と公債費の計画的な一括償還などの結果，年々純資産の割合が高くなってきていたが，臨時財政対策債残高の増傾向の影響で，平成25年度は資産の増額より，負債の増額幅の方が大きくなり，純資産の割合が下がった。



※19年度より総務省方式改訂モデルで作成

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
64.1%	67.6%	68.9%	70.1%	70.6%	71.3%	71.2%	70.0%

県内他市との比較（H24年度）

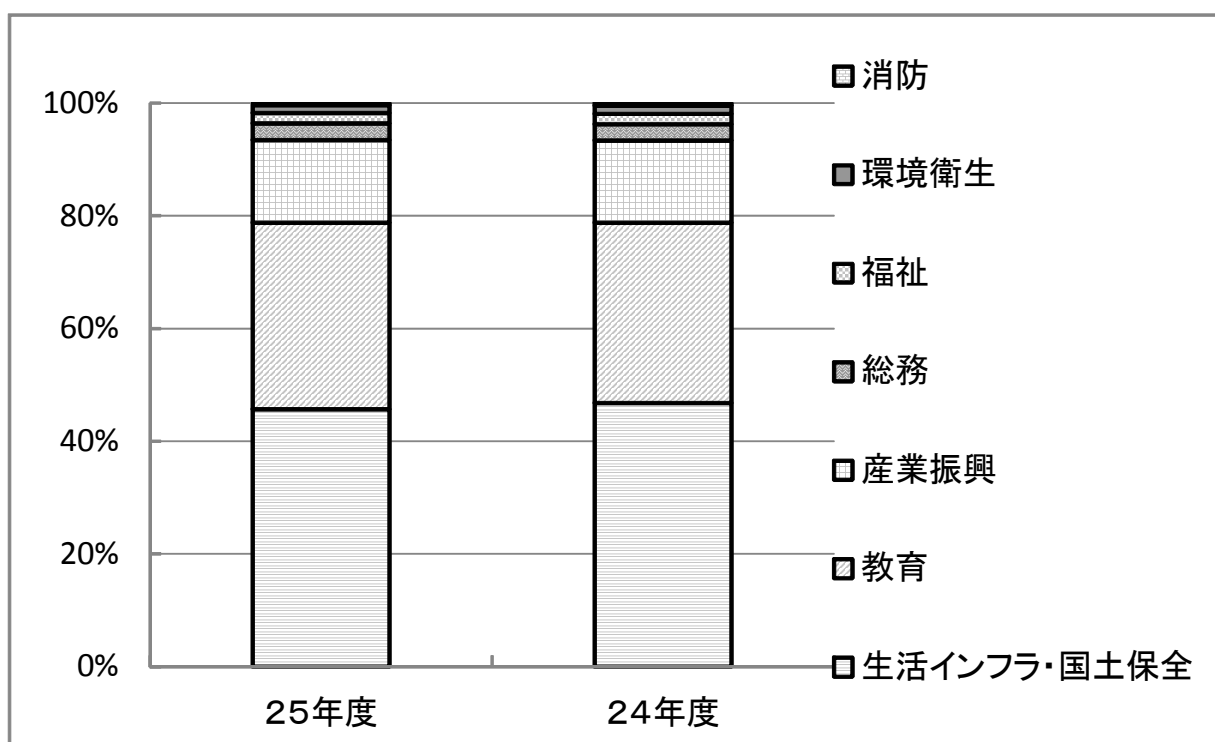
岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	井原市	総社市	高梁市	新見市
64.6%	74.3%	64.2%	62.1%	77.5%	68.5%	83.9%	67.5%
備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市			
74.8%	66.7%	69.8%	72.3%	72.8%			

(6) 公共資産の目的別割合

都市型の特徴である生活インフラ・国土保全の割合が高く、次いで学校などの教育、産業振興の割合が高くなっている。

教育は、土地開発公社の経営健全化対策として実施した、教育施設建設用地の買戻しにより増加している。

総務は、交通交流センターの建設により増加している。



(単位：億円，%)

行政目的	25年度		24年度	
	価額	構成比率	価額	構成比率
1 生活インフラ・国土保全	342	45.6	346	46.8
2 教育	248	33.1	237	32.0
3 産業振興	110	14.7	108	14.6
4 総務	23	3.0	21	2.8
5 福祉	14	1.9	14	1.9
6 環境衛生	10	1.3	11	1.5
7 消防	3	0.4	3	0.4
有形固定資産 計	750	100.0	740	100.0

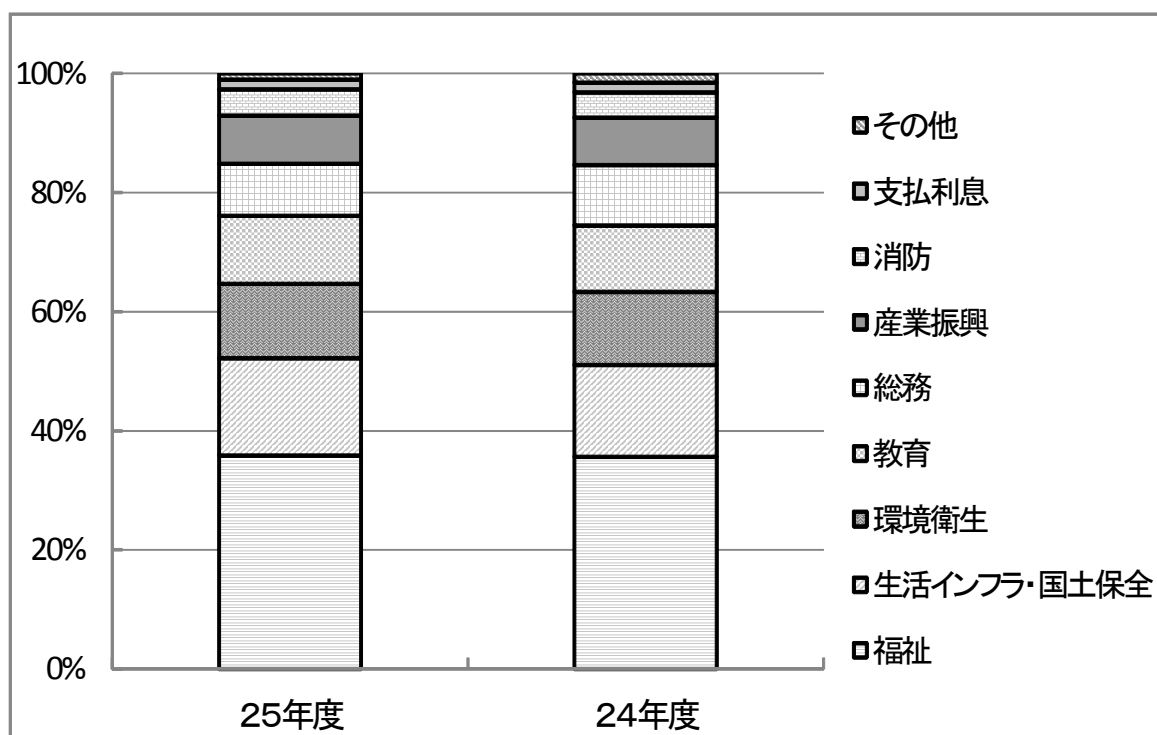
(7) 目的別行政コスト計算書

福祉や生活インフラ・国土保全の割合が高い。

福祉は、社会保障的な給付は増加しているが、人件費の減により減少している。

生活インフラ・国土保全は、住宅リフォーム助成金の増や都市計画図電子化業務などで増加している。

総務は、人件費や税等の還付金の減により減少している。



(単位：億円，%)

項目	25年度		24年度	
	金額	構成比率	金額	構成比率
1 福祉	66	35.9	67	35.6
2 生活インフラ・国土保全	30	16.3	29	15.4
3 環境衛生	23	12.5	23	12.2
4 教育	21	11.4	21	11.2
5 総務	16	8.7	19	10.1
6 産業振興	15	8.2	15	8.0
7 消防	8	4.3	8	4.3
8 支払利息	3	1.6	3	1.6
9 その他	2	1.1	3	1.6
合計	184	100.0	188	100.0

5 世帯にかかる財政分析（普通会計）

平成 25 年度の市税等を給料 20 万円の家計に例え、平成 24 年度（給料 20.0 万円）と比較してみる。

収入は、給料とおじいちゃんからの援助は前年度と同程度だが、支出が増えた分、ローンでまかなう額を増やしてやりくりをした。

支出は、住宅の耐震改修などで大幅に増えた。ローンの返済や友人・親戚への援助は減ってきたが、医療費は年々増えている。食費などを節約してやりくりしている。

これからも、限られた収入を大切に使うため、使い道を計画的に考えていく必要がある。

● 家計簿

収入 (単位：億円) (単位：万円)

笠岡市普通会計		決算額			家計に例えた場合		月額		
		H25	H24	増減			H25	H24	増減
1	市税, 使用料など	90.9	90.7	0.2	給料・家賃収入		20.0	20.0	0.0
2	繰入金	3.7	4.1	△0.4	預金の取り崩し		0.8	0.9	△0.1
3	国・県支出金など	107.8	106.9	0.9	おじいちゃんからの援助		23.7	23.6	0.1
4	市債	32.6	18.8	13.8	ローンでまかなっている額		7.2	4.1	3.1
収入計		235.0	220.5	14.5	収入計		51.7	48.6	3.1

支出

笠岡市普通会計		決算額			家計に例えた場合		月額		
		H25	H24	増減			H25	H24	増減
1	人件費	32.6	34.3	△1.7	食費		7.2	7.6	△0.4
2	扶助費	37.2	36.0	1.2	医療費など		8.2	7.9	0.3
3	公債費	21.9	23.2	△1.3	ローンの返済		4.8	5.1	△0.3
4	物件費	28.7	26.8	1.9	光熱水費・通信費・塾代など		6.3	5.9	0.4
5	投資的経費・維持補修費	43.5	25.9	17.6	住宅などの改修・家電製品の買替など		9.6	5.7	3.9
6	補助費・貸付金など	35.1	37.0	△1.9	友人・親戚への貸付・援助		7.7	8.2	△0.5
7	積立金	0.6	0.4	0.2	預金		0.1	0.1	0.0
8	繰出金	31.0	30.4	0.6	子どもへの仕送り		6.8	6.7	0.1
9	歳計剰余金	4.4	6.5	△2.1	タンス預金, 財布の中身など		1.0	1.4	△0.4
支出計		235.0	220.5	14.5	支出計		51.7	48.6	3.1

● 市債残高, 積立基金残高

項目	25 年度 A		24 年度 B		比較 (A-B)	
	残高	世帯当たり残高	残高	世帯当たり残高	残高	世帯当たり残高
総市債残高	210 億円	92.8 万円	196 億円	86.8 万円	14 億円	6.0 万円
積立基金残高	22 億円	9.9 万円	23 億円	10.3 万円	△1 億円	△0.4 万円

※ 総市債残高は普通会計の合算

※ 積立基金残高は財政調整基金, 減債基金, その他特定目的基金の残高

※ 世帯数 平成 26 年 3 月末 22,638 世帯, 平成 25 年 3 月末 22,648 世帯

6 市民一人にかかる財政分析

(1) 市民一人当たりの資産・負債（普通会計）

① 市民一人当たりのバランスシート

一人当たりの資産： 156万6千円（対前年度 3万2千円の増）

一人当たりの負債： 46万9千円（対前年度 2万8千円の増）

市の資産・負債が増加したため、市民一人当たりの資産・負債も増加した。

人口減少傾向の中で、安全・安心な生活を確保しつつ、将来の負担を減少させるためには、負債を増やさないようにしなければならない。

平成26年3月31日現在人口 52,273人

平成25年3月31日現在人口 52,817人

（単位：千円）

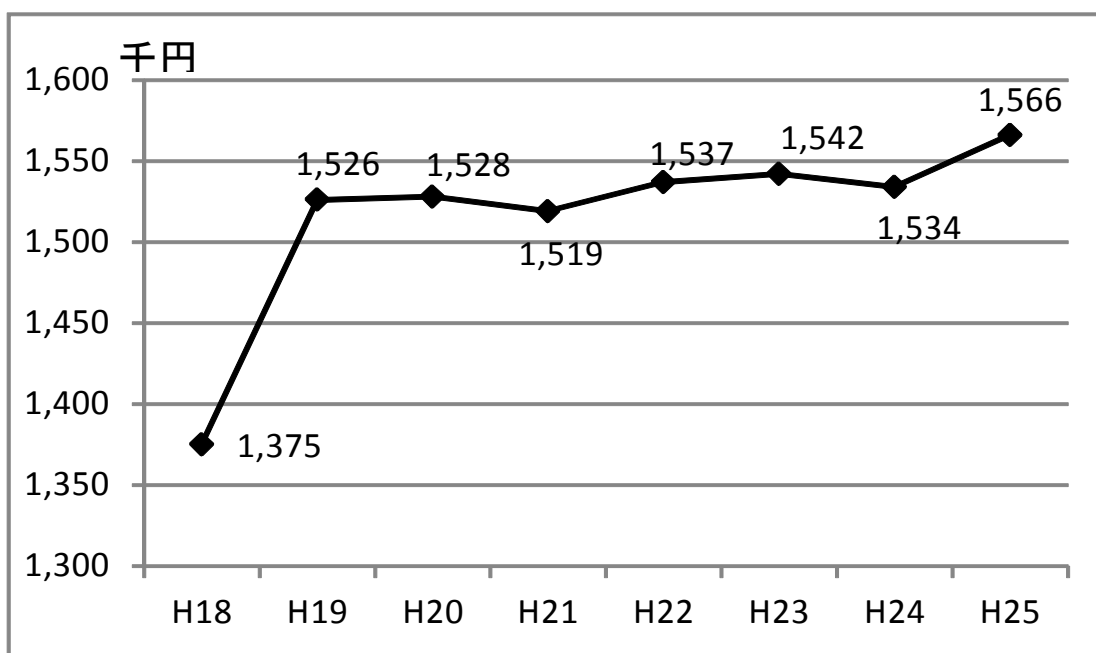
区 分	25年度	24年度	区 分	25年度	24年度
【資産の部】			【負債の部】		
1 公共資産			1 固定負債		
(1)有形固定資産	1,435	1,400	(1)地方債	365	336
①生活インフラ・国土保全	654	654	(2)長期未払金	0	0
②教育	474	449	(3)退職手当引当金	62	60
③福祉	26	27	(4)その他	0	0
④環境衛生	20	20	固定負債合計	427	396
⑤産業振興	211	205	2 流動負債		
⑥消防	6	5	(1)翌年度償還予定地方債	37	36
⑦総務	44	40	(2)未払金	0	0
(2)売却可能資産	3	3	(3)翌年度償還予定退職手当	2	6
公共資産合計	1,438	1,403	(4)賞与引当金	3	3
2 投資等			流動負債合計	42	45
(1)投資及び出資金	46	44	負債合計	469	441
(2)貸付金	2	2	【純資産の部】		
(3)基金等	25	27	1 公共資産等整備国県補助金等	280	278
(4)長期延滞債権	16	16	2 公共資産等整備一般財源等	1,042	1,023
(5)その他	0	0	3 その他一般財源等	△ 225	△ 207
(6)回収不能見込額	△ 2	△ 2	4 資産評価差額	0	△ 1
投資等合計	87	87	純資産合計	1,097	1,093
3 流動資産			負債・純資産合計	1,566	1,534
(1)現金・預金	39	42			
(2)未収金	2	2			
流動資産合計	41	44			
資産合計	1,566	1,534			

② 市民一人当たりの資産の推移

一人当たりの資産は、土地開発公社の経営健全化のための土地の買戻しや防災・減災事業により、3万2千円の増加となっている。

平成24年度の数値を県内他市と比較すると、一人当たりの資産は、少ない方から5番目となっている。

今後も、建設事業が増える予定のため、資産が増加するとともに、人口減少傾向の影響もあって、市民一人当たりの資産は今後も増加することが見込まれる。



※19年度より総務省方式改訂モデルで作成

市民1人当たり資産

(単位：千円)

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
1,375	1,526	1,528	1,519	1,537	1,542	1,534	1,566

県内他市との比較 (H24年度)

(単位：千円)

岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	井原市	総社市	高梁市	新見市
1,321	1,515	1,668	1,065	2,299	1,648	6,646	4,014
備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市			
2,134	1,473	1,831	3,055	1,556			

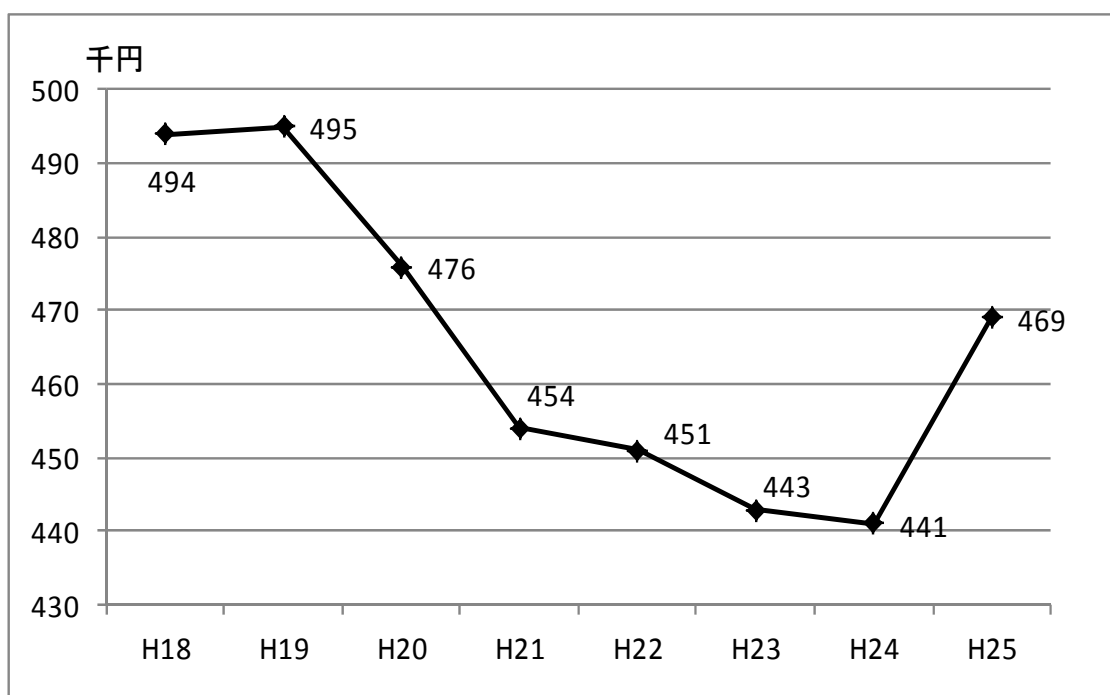
③ 市民一人当たりの負債の推移

一人当たりの負債は46万9千円となり、2万8千円増加している。

土地開発公社の土地の買戻しや防災・減災に係る市債発行額の増、普通交付税の振替である臨時財政対策債の残高が増えていることが主な要因となっている。

平成24年度の数值を県内他市と比較すると、一人当たりの負債は、少ない方から4番目となっている。

今後も、財政運営適正化計画に基づき、市債発行の抑制と、負債の繰上げ返済などを進め、将来世代の負担を軽減していく必要がある。



※19年度より総務省方式改訂モデルで作成

市民1人当たり負債

(単位：千円)

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
494	495	476	454	451	443	441	469

県内他市との比較 (H24年度)

(単位：千円)

岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	井原市	総社市	高梁市	新見市
468	389	597	404	516	519	1,069	1,303
備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市			
538	490	553	846	424			

(2) 市民一人当たりの行政コスト計算書（普通会計）

社会保障給付や物件費（都市計画図の電子化業務など）が増加し、補助金（一部事務組合の負担金など）や他団体への公共資産整備補助金（介護施設開設費補助金など）、人件費等が減少した結果、市民1人当たりの純経常行政コストは2,332円減少した。

今後も健全な財政運営を継続し、適正なコストによる行政サービスの充実に努める必要がある。

平成26年3月31日現在人口 52,273人

平成25年3月31日現在人口 52,817人

（単位：円）

項 目	25年度	24年度	増減
人件費	53,638	55,449	△ 1,811
退職手当引当金繰入等	5,075	5,218	△ 143
賞与引当金繰入額	2,517	3,363	△ 846
物件費	54,847	50,698	4,149
維持補修費	4,169	4,422	△ 253
減価償却費	48,591	47,869	722
社会保障給付	71,234	68,107	3,127
補助金等	52,664	55,755	△ 3,091
他会計への支出額	66,026	64,506	1,520
他団体への公共資産整備補助金等	8,584	13,214	△ 4,630
支払利息	5,417	5,924	△ 507
回収不能見込増減額	△ 51	567	△ 618
その他行政コスト	0	0	0
経常行政コスト合計	372,711	375,092	△ 2,381
使用料・手数料	9,328	8,581	747
分担金・負担金・寄附金	10,631	11,427	△ 796
経常収益合計	19,959	20,008	△ 49
（差引）純経常行政コスト	352,752	355,084	△ 2,332

(3) 市民一人当たりの資産・負債（連結）

① 市民一人当たりの連結バランスシート

一人当たりの資産： 255万8千円（対前年度 9千円の増）
 一人当たりの負債： 83万8千円（対前年度 1万2千円の減）
 一人当たりの純資産： 172万円（対前年度 2万1千円の増）

市全体の連結では、資産が増え、負債が減ったため、純資産が大きく増えた。
普通会計では、土地開発公社の経営健全化対策により、市民一人当たりの負債は増加したが、市の会計全体を連結して見ると市民一人当たりの負債は減少しており、土地開発公社の経営健全化が、市全体の財政健全化に繋がったことがわかる。

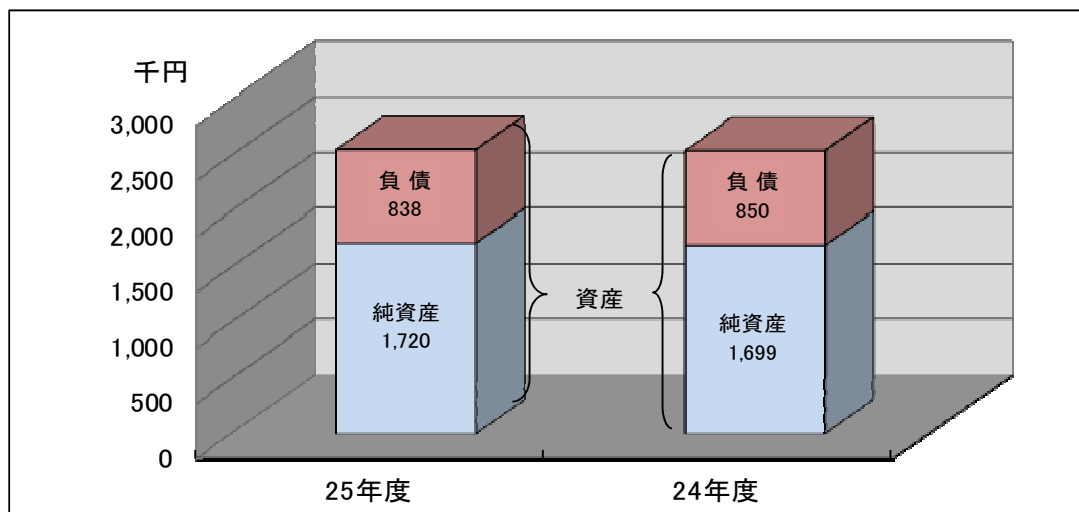
平成26年3月31日現在人口 52,273人

平成25年3月31日現在人口 52,817人

平成26年3月31日現在

（単位：千円）

区 分	25年度		24年度		増 減	
	金額	割合	金額	割合	金額	割合
【資産の部】	2,558	100.0%	2,549	100.0%	9	0.4%
1 公共資産	2,385	93.2%	2,358	92.5%	27	1.1%
2 投資等	80	3.1%	79	3.1%	1	1.3%
3 流動資産	93	3.7%	112	4.4%	△19	△17.0%
4 繰延勘定	0	0.0%	0	0.0%	0	—
【負債の部】	838	32.8%	850	33.3%	△12	△1.4%
1 固定負債	761	29.7%	759	29.7%	2	0.3%
2 流動負債	77	3.1%	91	3.6%	△14	△15.4%
【純資産の部】	1,720	67.2%	1,699	66.7%	21	1.2%
負債・純資産合計	2,558	100.0%	2,549	100.0%	9	0.4%

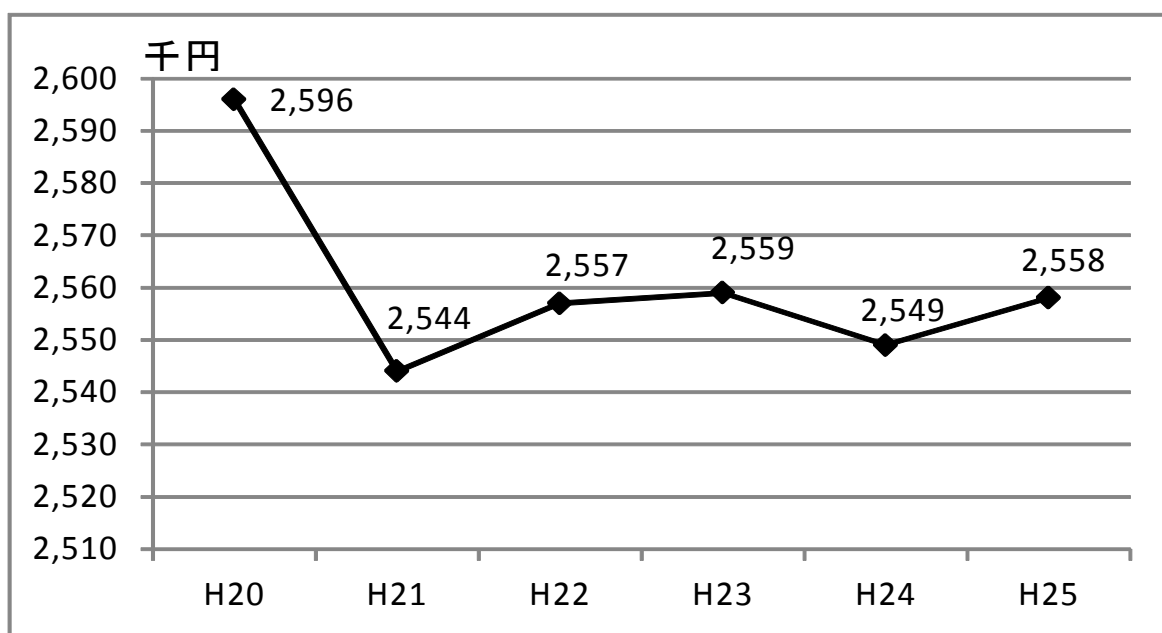


② 市民一人当たりの資産の推移（連結）

連結した場合の一人当たりの資産は、防災・減災事業などにより、9千円の増加となっている。

平成24年度の数値を県内他市と比較すると、一人当たりの資産は、少ない方から6番目となっている。

今後は、一部事務組合などにおいても、大規模な建設事業が予定されているため、市全体でも資産は増加傾向になることが見込まれる。



※20年度より連結財務書類作成

市民1人当たり（連結）

（単位：千円）

H20	H21	H22	H23	H24	H25
2,596	2,544	2,557	2,559	2,549	2,558

県内他市との比較（H24年度）

（単位：千円）

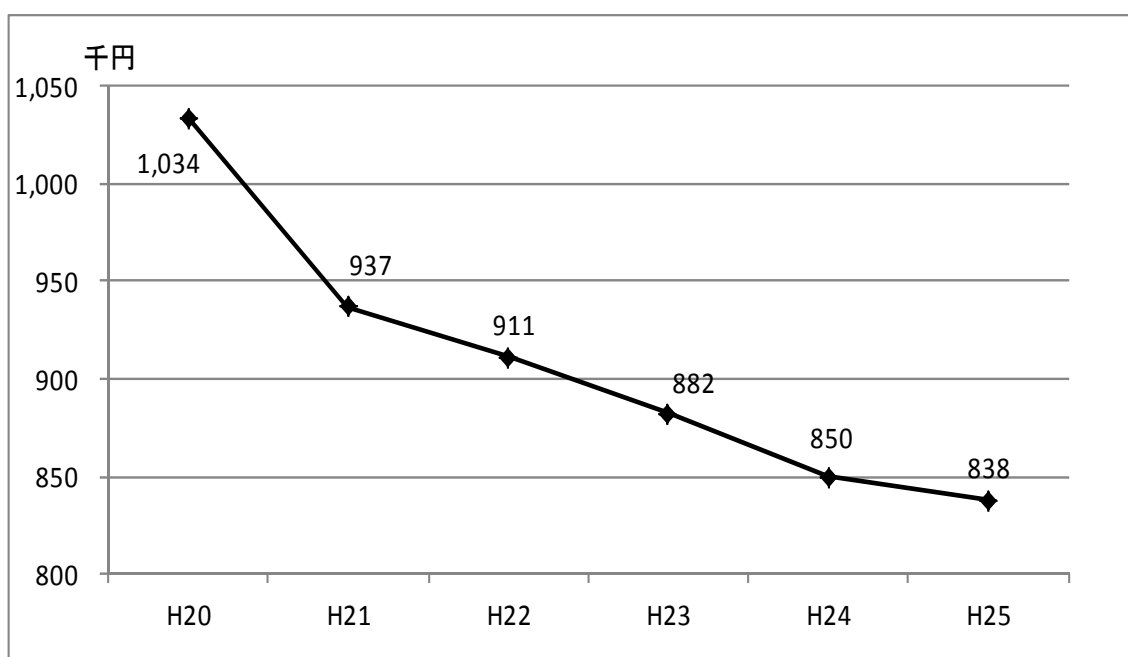
岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	総社市	高梁市	新見市	備前市
2,212	2,395	2,907	1,986	2,497	7,855	5,723	3,986
瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市				
2,532	3,022	4,471	2,694				

③ 市民一人当たりの負債の推移（連結）

連結した場合の一人当たりの負債は83万8千円となり、1万2千円減少している。
土地開発公社の土地の買戻しにより、普通会計での負債は増えたが、土地開発公社の負債はそれ以上に減ったため、市全体の連結では、負債を減少させることが出来ている。

平成24年度の数値を県内他市と比較すると、一人当たりの負債は、少ない方から3番目となっている。

負債は順調に減少しているが、今後、多くの建設事業が予定されており、安定した財政運営を継続するために、市全体の負債を減少させる取り組みは継続していく必要がある。



※20年度より連結財務書類作成

市民1人当たり負債（連結）

（単位：千円）

H20	H21	H22	H23	H24	H25
1,034	937	911	882	850	838

県内他市との比較（H24年度）

（単位：千円）

岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	総社市	高梁市	新見市	備前市
938	869	1,276	789	836	1,581	2,030	1,402
瀬戸内市	赤磐市	真庭市	浅口市				
950	1,035	1,460	879				

7 新地方公会計制度について

(1) 最近の公会計改革を取り巻く流れ

平成13年 3月 『地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究報告書』（総務省）

⇒「旧総務省方式」

自治体のバランスシートと行政コスト計算書の統一的な作成手法を示す。

平成17年12月 『行政改革の重要方針』（閣議決定）

⇒「自治体における資産・債務改革の必要性を明確に打ち出す。」

地方公共団体の資産・債務の実態把握，管理体制状況を総点検し，改革の方向と具体的施策を明確にした。

平成18年 5月 『新地方公会計制度研究会報告書』（総務省）

⇒「基準モデル」と「総務省方式改訂モデル」の2つのモデルを示す。

平成18年 7月 『新地方公会計制度実務研究会』による実証的検証

⇒「基準モデル」＝岡山県倉敷市

「総務省方式改訂モデル」＝静岡県浜松市

平成18年 8月 『地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針』（総務省）

⇒3年後までにバランスシート，行政コスト計算書，資金収支計算書，純資産変動計算書の4表の整備と情報の開示に取り組むこと。

平成19年10月 『新地方公会計制度実務研究会報告書』（総務省）

『公会計の整備推進について』（総務省自治財政局長通知）

⇒「基準モデル」と「総務省方式改訂モデル」による財務書類の作成要領を示す。

平成27年1月 『統一的な基準による地方公会計の整備促進について』（総務大臣通知）

⇒固定資産台帳と複式簿記の導入を前提とした統一的な基準による財務書類を平成27年度から平成29年度までの3年間で全ての地方公共団体において作成することとされた。

(2) 基準モデルと総務省方式改訂モデルの特徴

① 基準モデルの特徴

ア．現存する固定資産を全てリストアップし，公正価格により評価する。

イ．予測財務書類を作成し，包括的な予算編成の管理が可能となる。

② 総務省方式改訂モデルの特徴

ア．固定資産台帳や個々の複式記帳によらず，決算統計情報を活用して作成する。

※ただし，喫緊の課題には優先的に対応

・売却可能資産の洗い出しと評価・貸付金及び未収金の評価・投資及び出資金の評価

・職員の退職手当の支給見込額とその財源としての基金等の積立状況の把握

イ．段階的な固定資産台帳の整備と複式簿記の考え方を導入する。

8 用語解説

(1) 連結バランスシート用語解説

用語	解説
有形固定資産	土地や建物などの不動産，消防車や医療機器などの高額備品などの動産で保有が長期に及ぶ資産
売却可能資産	有形固定資産のうち，遊休資産や未利用資産等（一時的に賃貸している場合も含む）の売却が可能な資産
投資及び出資金	公営企業や外郭団体などへの出資金や有価証券等（連結バランスシートでは，各会計間の出資金は内部取引として相殺消去されている（貸付金も同様））
貸付金	公営企業への貸付金や福祉関係の貸付金など
基金等	特定の目的のために積み立てられ，または運用するために設けられた資金や財産のうち保有が長期に及ぶもの
長期延滞債権	市税などの収入未済額のうち1年以上未収のもの
回収不能見込増減額	時効等により将来徴収不能となる可能性が高いと見込まれるものの増減
流動資産	原則として1年以内に現金化される資産
現金・預金	現金及び流動性の高い基金など
未収金	市税などの収入未済額のうち過去1年以内に発生したもの
繰延勘定	開発費や創立費など既に支出された費用のうち，その効果が将来に及ぶとされるもの。（退職手当にかかるものは除く）
固定負債	返済期限が1年を超える債務
債務負担行為	物件等の引渡しをうけたもののうち支払いが済んでいない債務
引当金	将来における特定の支出に対する準備額
退職手当引当金	年度末に全職員が退職すると仮定した場合の要支給額
その他の引当金	突発的な災害等に備えるための修繕引当金など
流動負債	返済期限が1年以内の債務
翌年度償還予定額	地方債などの借入金のうち翌年度に返済すべきもの （翌々年度以降に返済が生じるものは固定負債に計上）
翌年度繰上充用金	翌年度歳入からの借入金（通常はない）
賞与引当金	翌年度に支払うことが予定される賞与のうち今年度負担分
純資産	資産形成に充てられた返済の必要のない財源

(2) 普通会計バランスシート用語解説

用語	解 説	
有形固定資産の科目の組 替え	バランスシート	予算科目
	生活インフラ・国土保全	土木費
	教育	教育費
	福祉	民生費
	環境衛生	衛生費
	産業振興	農林水産業費，労働費，商工費
	消防	消防費
	総務	総務費，その他
退職手当目的基金	退職手当に充てるため積み立てられた基金	
その他特定目的基金	「福祉基金」や「義務教育施設整備費引当基金」，「藤井育英会奨学基金」など，特定の目的に充てるために積み立てられた基金	
土地開発基金	公共用地を先行取得するための財源として積み立てられた基金	
財政調整基金	年度間の財源調整を図り，財政の健全な運営のために設けられた基金	
減債基金	地方債の償還に充てるため積み立てられた基金	
歳計現金	当該年度の歳入・歳出の差額（年度末の繰越残高）	
※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産（P 19）	他団体や民間企業等に支出した資産形成に係る補助金・負担金等及びその財源（市の資産ではないためバランスシートには未計上）	
※4 普通会計の将来負担に関する情報（P 19）	「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく，「将来負担比率」の算定根拠となった債務負担行為額や公営企業の負債に対するものなど将来普通会計の負担が見込まれる債務	
※ 純資産の部の解説については，P 44「純資産変動計算書の用語解説」を参照		
※ その他の用語については，P 41「連結バランスシートの用語解説」を参照		

(3) 行政コスト計算書の用語解説

用語	解説
人件費	給与費（報酬，職員給，各種手当等）から退職手当及び前年度賞与引当金を除いた金額
退職手当引当金繰入等	当該年度に引当金として新たに繰り入れた額など
賞与引当繰入額	翌年度に支払うことが予定される賞与のうち今年度負担分
物件費	旅費，備品購入費，委託料，光熱水費などの経費
維持補修費	施設などの維持修繕に要する経費
減価償却費	有形固定資産が経年劣化等に伴い，価値が減少したと認められる金額
社会保障給付	児童手当の支給，高齢者や障害者に対する援護措置，生活保護などに要する経費
補助金等	各種団体に対する補助金など
他会計への支出額	特別会計など他会計に対する財政的な支援金額
他団体等への公共資産整備補助金等	バランスシートの欄外に注記した「他団体及び民間への支出金により形成された資産」の当該年度分支出額
支払利息	地方債及び一時借入金の利子支払額
回収不能見込計上額	時効等により徴収不能となった市税や使用料・手数料など
その他行政コスト	災害の復旧に要した経費など
使用料	施設を利用した際に徴収する料金の調定額
手数料	戸籍や住民票，税務証明の発行など公の役務の提供に対し徴収する料金の調定額
分担金・負担金・寄附金	分担金・負担金，寄附金の調定額
純経常行政コスト	経常行政コストから行政サービスの提供の対価である使用料・手数料や負担金・分担金などの経常収益を差し引いた金額

(4) 純資産変動計算書の用語解説

	用語	解説
表頭	資産等整備国県補助金等 〃 一般財源等	バランスシートの有形固定資産及び投資及び出資金、貸付金、基金を形成している財源
	その他一般財源等	バランスシートの公共資産等整備以外の財源
	資産評価差額	売却可能資産や出資金等の時価評価による額の変動や寄附等により無償で受贈した場合の評価差額
表側	地方税	市民税、固定資産税、都市計画税など
	地方交付税	普通交付税、特別交付税
	その他行政コスト充当財源	地方譲与税、地方消費税交付金、地方特例交付金など
	臨時損益	経常的でない特別な事由に基づく損益
	災害復旧事業費	降雨、暴風その他の災害によって被害を受けた施設等を復旧するための事業費
	公共資産等除売却損益	公共資産の売却等による損益
	科目振替	純資産を構成する科目相互間での資金の変動を明示するため設けられた項目
	公共資産整備への財源投入	バランスシートの公共資産を整備するために投じられた財源の変動
	公共資産処分による財源増	土地の売却など資産処分による財源の変動
	貸付金・出資金等への財源投入	バランスシートの投資及び出資金、貸付金、基金に投じられた財源の変動
	貸付金・出資金等の回収等による財源増	投資及び出資金、貸付金、基金の回収等による財源の変動
	減価償却による財源増	減価償却による公共資産等形成の財源からその他一般財源等への振替
	資産評価替えによる変動額	売却可能資産や出資金等の時価評価による額の変動や資産評価替えを行った場合の差額
無償受贈資産受入	寄附等により無償で資産を受贈した場合にバランスシートに追加計上した評価額	

(5) 資金収支計算書の用語解説

用語	解説
経常的収支の部	市政を運営する上で、毎年度継続的に収入、支出されるもの
公共資産整備収支の部	道路や学校、公園など主にバランスシートの有形固定資産形成のための支出及び財源
投資・財務的収支の部	公営企業や外郭団体への出資金・貸付金、地方債の元金償還額などの経費及び財源
基礎的財政収支 (プライマリーバランス)	収入総額から地方債発行額と財政調整基金等の取崩額を、支出総額から地方債元利償還金と財政調整基金等の積立額を除く、その年の実質的な収支。 基礎的財政収支が均衡していれば、毎年の政策的な経費などが、税金などの毎年の収入で賄われていることになる。